
地域情報化スキルマップ詳細

プロセス1：現状調査（1／4）

地域情報化を推進するに当たっては、最初に、地域における課題を把握する事が求められます。

現状把握のための、地域の現状調査プロセスは、「リソース設計・調達」、「地域課題の調査・把握」、「地域課題解決に資する資源の整理」、「現状調査結果の承認」の4つのサブプロセスにて構成されます。

●現状調査プロセス…リソース設計・調達サブプロセス

「リソース設計・調達サブプロセス」は、現状調査に必要なチームの要員やモノ・カネの設計・調達を行うプロセスに位置付けられます。

| スキル項目 | | 現状調査プロセス | リソース設計・調達 |
|----------|------------|--------------------|---|
| テクニカルスキル | プランニング | 情報収集 | ・ 地域の課題を抽出するための、現状把握を実施する事の出来る組織／人に関する情報を収集し、特定することができる |
| | | 情報分析 | — |
| | | 戦略・計画立案 | ・ 特定された組織／人に対し、地域の現状把握の実施を指示／依頼することができる ・ 新たに、地域の現状の課題を把握するための組織を設立することができる |
| | 情報システム | 情報システム 調達・構築・運用 | — |
| | | 情報リテラシー | — |
| | 広報・PR | — | |
| | 財務会計 | 資金調達計画/実行 | — |
| | | 予算管理 | — |
| | マーケティング | — | |
| | 関係者折衝・顧客管理 | — | |
| | 人材開発・管理 | — | |
| | 法 務 | — | |
| | プロジェクト管理 | — | |
| ヒューマンスキル | コミュニケーション | プレゼンテーション | — |
| | | 状況対応 | — |
| | リーダーシップ | リーダーシップ | — |
| | | メンバーの育成 | — |
| | | チームマネジメント | — |
| | ネゴシエーション | ネゴシエーション | — |
| | | コーディネーション | ・ 自身／自組織内に、現状調査に関する知識／スキルが無い場合、それを有している第三者／組織の存在を知っている ・ 第三者／組織に対し、自身／自組織が有していない知識／スキルに関して、教えを請う／協力を要請することができる |



プロセス1：現状調査（2／4）

●現状調査プロセス…地域課題の調査・把握サブプロセス

「地域課題の調査・把握サブプロセス」は、地域の課題／問題意識を把握するため、資料・情報などを収集し、分析するプロセスに位置付けられます。

| スキル項目 | | 現状調査プロセス | 地域課題の調査・把握 |
|-----------|------------|--|--|
| テクニカルスキル | プランニング | 情報収集 | <ul style="list-style-type: none"> ・関連する上位計画等の情報を収集し、地域における課題の全般的な把握を行うことができる ・地域における課題の情報収集（類似事例や行政の政策・施策に関する情報）の手段（例：現地視察／インタビュー等）を知っている／実際に行うことができる |
| | | 情報分析 | <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果を分析して地域の課題を抽出することができる |
| | | 戦略・計画立案 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域課題を把握した上、地域情報化により解決可能な課題の優先度合いを策定することができる |
| | 情報システム | 情報システム調達・構築・運用 | — |
| | | 情報リテラシー | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の現状等について、インターネット検索等を用いた情報収集を行なう事ができる |
| | 広報・PR | — | |
| | 財務会計 | 資金調達計画/実行 | — |
| | | 予算管理 | — |
| | マーケティング | — | |
| | 関係者折衝・顧客管理 | — | |
| 人材開発・管理 | — | | |
| 法務 | — | | |
| プロジェクト管理 | — | | |
| ヒューマンスキル | コミュニケーション | プレゼンテーション | — |
| | | 状況対応 | <ul style="list-style-type: none"> ・議論の場を設定、運営し、多様な意見の取りまとめを行うことができる ・論理的な思考によって問題解決を行うことができる |
| | リーダーシップ | リーダーシップ | <ul style="list-style-type: none"> ・信頼関係を築き、現状調査を実施しているメンバーのモチベーション・コントロールを行なうことができる |
| | | メンバーの育成 | <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な指導／コーチングや分析手法等に関する勉強会の開催など、状況に応じた育成手法を利用することができる ・人材育成を考慮した適切な権限委譲を行うことができる |
| | | チームマネジメント | <ul style="list-style-type: none"> ・現状調査担当者に業務のミッションを説明して動機付けを行うことができる |
| | ネゴシエーション | ネゴシエーション | <ul style="list-style-type: none"> ・理論的思考を持ち、(地域やトップとの)折衝、交渉、取引の技術やプロセスを理解したうえで、現状調査フェーズを円滑に実施するための環境を作ることができる |
| コーディネーション | | <ul style="list-style-type: none"> ・自身／自組織内に、現状調査に関する知識／スキルが無い場合、それを有している第三者／組織の存在を知っている ・第三者／組織に対し、自身／自組織が有していない知識／スキルに関して、教を請う／協力を要請することができる | |

現状調査

企画

計画

開発

運営

評価

プロセス1：現状調査（3／4）

●現状調査プロセス…地域課題解決に資する資源の整理サブプロセス

「地域課題解決に資する資源の整理サブプロセス」は、地域の課題／問題意識の解決に資する資源（人的資源含む）の整理、発掘を行なうプロセスとして位置付けられます。

| スキル項目 | | 現状調査プロセス | 地域課題解決に資する資源の整理 |
|-----------|------------|---|--|
| テクニカルスキル | プランニング | 情報収集 | <ul style="list-style-type: none"> ・事業化のために必要な関係者・支援者（行政・業界団体・民間団体・NPO・事業者・学校／学術研究者など）、資源などに関する情報収集を広く行うことができる ・予定する事業の類似事例等の情報収集を行うことができる |
| | | 情報分析 | <ul style="list-style-type: none"> ・収集した情報をもとに、地域の課題解決の方向性に関する分析を行うことができる ・収集した情報を分析して地域資源（自組織）の強みの把握を行うことができる |
| | | 戦略・計画立案 | <ul style="list-style-type: none"> ・分析結果から課題解決（事業化）に向けたコンセプト案ならびに、実現にむけた資源（初期投資額、各関係者の役割分担等）を想定することができる |
| | 情報システム | 情報システム調達・構築・運用 | — |
| | | 情報リテラシー | — |
| | 広報・PR | — | |
| | 財務会計 | 資金調達計画/実行 | — |
| | | 予算管理 | — |
| | マーケティング | <ul style="list-style-type: none"> ・事業を行う地域が有する競争優位となる要因の評価を市場調査によって行うことができる ・地域資源に係る条件や市場価値を把握することができる | |
| | 関係者折衝・顧客管理 | — | |
| | 人材開発・管理 | — | |
| | 法務 | — | |
| プロジェクト管理 | — | | |
| ヒューマンスキル | コミュニケーション | プレゼンテーション | — |
| | | 状況対応 | <ul style="list-style-type: none"> ・議論の場を設定、運営し、多様な意見の取りまとめを行うことができる ・論理的な思考によって問題解決を行うことができる |
| | リーダーシップ | リーダーシップ | <ul style="list-style-type: none"> ・信頼関係を築き、現状調査を実施しているメンバーのモチベーション・コントロールを行なうことができる |
| | | メンバーの育成 | <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な指導／コーチングや分析手法等に関する勉強会の開催など、状況に応じた育成手法を利用することができる ・人材育成を考慮した適切な権限委譲を行うことができる |
| | | チームマネジメント | <ul style="list-style-type: none"> ・現状調査担当者に業務のミッションを説明して動機付けを行うことができる |
| | ネゴシエーション | ネゴシエーション | <ul style="list-style-type: none"> ・理論的思考を持ち、（地域やトップとの）折衝、交渉、取引の技術やプロセスを理解したうえで、現状調査フェーズを円滑に実施するための環境を作ることができる |
| コーディネーション | | <ul style="list-style-type: none"> ・自身／自組織内に、現状調査に関する知識／スキルが無い場合、それを有している第三者／組織の存在を知っている ・第三者／組織に対し、自身／自組織が有していない知識／スキルに関して、教えを請う／協力を要請することができる | |



プロセス1：現状調査（4／4）

●現状調査プロセス…現状調査結果の承認サブプロセス

「現状調査結果の承認サブプロセス」は、現状調査の達成状況を確認し、次のプロセスへ進むことを承認、もしくは改善を行うプロセスとして位置付けられます。

| スキル項目 | | 現状調査プロセス | 現状調査結果の承認 |
|-----------|------------|---|---|
| テクニカルスキル | プランニング | 情報収集 | — |
| | | 情報分析 | — |
| | | 戦略・計画立案 | — |
| | 情報システム | 情報システム調達・構築・運用 | — |
| | | 情報リテラシー | ・説明のための分かり易い資料をパソコン上のワープロソフト等を利用して作成することができる |
| | 広報・PR | | — |
| | 財務会計 | 資金調達計画/実行 | — |
| | | 予算管理 | — |
| | マーケティング | | — |
| | 関係者折衝・顧客管理 | | — |
| | 人材開発・管理 | | — |
| | 法務 | | — |
| プロジェクト管理 | | — | |
| ヒューマンスキル | コミュニケーション | プレゼンテーション | ・意思決定権者に対し、地域の課題に対し、正確且つ納得感のある説明ができる ・地域の課題の解決方法として、情報化の必要性を理解させることができる ・上記理解を促す事を目的とした、資料の作成を行なうことができる |
| | | 状況対応 | — |
| | リーダーシップ | リーダーシップ | — |
| | | メンバーの育成 | — |
| | | チームマネジメント | — |
| | ネゴシエーション | ネゴシエーション | — |
| コーディネーション | | ・情報化の必要性の理解が進まないトップ層に対しては、先進事例視察等、ICT利活用状況を直接体験させるなどの手段で、理解の促進を図ることができる | |

現状調査

企画

計画

開発

運営

評価

プロセス2：地域情報化企画策定（1／5）

本プロセスは、地域における課題を把握した後、情報技術（ICT）が課題解決に資するものである場合、情報化によるおおまかな事業／サービスの企画を立案するプロセスに位置付けられます。

地域情報化企画策定プロセスは、「（地域情報化企画策定のための）リソース設計・調達」、「地域情報化ニーズ等の調査」、「地域情報化戦略立案」、「地域情報化計画策定」、「地域情報化企画検討内容の承認」の5つのサブプロセスにて構成されます。

●地域情報化企画策定プロセス…リソース設計・調達サブプロセス

「リソース設計・調達サブプロセス」は、地域情報化企画推進に必要なチームの要員やモノ・カネの設計・調達を行うプロセスに位置付けられます。

| スキル項目 | | 企画プロセス | リソース設計・調達 |
|----------|------------|--|--|
| テクニカルスキル | プランニング | 情報収集 | ・地域の情報化ニーズを把握することの出来る組織／人に関する情報を収集し、特定することができる |
| | | 情報分析 | — |
| | | 戦略・計画立案 | ・地域の課題を解決するためのするためサービス企画を実施する事の出来る組織／人を特定することができる ・特定された組織／人に対し、サービス企画の実施を指示／依頼することができる ・特に、中心となり検討を行うことのできる推進役組織／人物を組織内外から広く募る事ができる |
| | 情報システム | 情報システム 調達・構築・運用 | ・情報システム企画を立案するために必要な能力を定義し、適切な人員を計画メンバーとして調達することができる |
| | | 情報リテラシー | — |
| | 広報・PR | — | — |
| | 財務会計 | 資金調達計画/実行 | — |
| | | 予算管理 | — |
| | マーケティング | — | — |
| | 関係者折衝・顧客管理 | — | — |
| | 人材開発・管理 | ・検討に必要なスキルや人材の定義を行い、人員計画及び教育計画の策定を行うことができる ・人員計画に基づいて、人員の確保を行うことができる ・教育計画に基づいて、要員に対して必要な育成・教育を行うことができる | — |
| | 法務 | — | — |
| | プロジェクト管理 | — | — |
| | ヒューマンスキル | コミュニケーション | プレゼンテーション |
| 状況対応 | | | — |
| リーダーシップ | | リーダーシップ | ・企画に携わる複数主体間と、信頼関係の上に乗って目標を管理し、目標達成に導く |
| | | メンバーの育成 | ・メンバーに対する動機付けを行い、その育成を支援することができる |
| | | チームマネジメント | ・チームの目標を管理し、目標達成に導くことができる |
| ネゴシエーション | | ネゴシエーション | ・理論的思考を持ち、（地域やトップとの）折衝、交渉、取引の技術やプロセスを理解し、実践することができる |
| | コーディネーション | ・自身／自組織内に、サービス企画に関する知識／スキルが無い場合、それを有している第三者／組織の存在を知っている ・第三者／組織に対し、自身／自組織が有していない知識／スキルに関して、教を請う／協力を要請することができる | |



プロセス2：地域情報化企画策定（2／5）

●地域情報化企画策定プロセス…地域情報化ニーズ等の調査サブプロセス

「地域情報化ニーズ等の調査サブプロセス」は、地域課題に対する解決方法、及びその手段としてのICT活用可能性を検討するプロセスに位置付けられます。

| スキル項目 | | 企画プロセス | 地域情報化ニーズ等の調査 |
|-----------|------------|---|---|
| テクニカルスキル | プランニング | 情報収集 | — |
| | | 情報分析 | ・調査結果を分析して、地域における情報化ニーズを抽出することができる |
| | | 戦略・計画立案 | — |
| | 情報システム | 情報システム調達・構築・運用 | — |
| | | 情報リテラシー | ・調査結果等をパソコン上の表計算ソフト等を利用してグラフ化等の情報加工を行なう事ができる |
| | 広報・PR | — | |
| | 財務会計 | 資金調達計画/実行 | — |
| | | 予算管理 | — |
| | マーケティング | ・地域の課題抽出から導出された地域情報化ニーズ仮説に対し、実際の関係者から、情報化ニーズに対するヒアリング調査等を設計・実施することができる ・地域情報化に関する課題の収集または把握を行うことができる | |
| | 関係者折衝・顧客管理 | ・事業の対象となる受益者を選定し、利用率等の目標の設定を行うことができる | |
| | 人材開発・管理 | ・検討に必要なスキルや人材の定義を行い、教育計画の策定を行うことができる ・教育計画に基づいて、要員に対して必要な育成・教育を行うことができる | |
| | 法務 | — | |
| | プロジェクト管理 | — | |
| ヒューマンスキル | コミュニケーション | プレゼンテーション | — |
| | | 状況対応 | — |
| | リーダーシップ | リーダーシップ | ・企画に携わる複数主体間と、信頼関係の上に立って目標を管理し、目標達成に導く |
| | | メンバーの育成 | ・メンバーに対する動機付けを行い、その育成を支援することができる |
| | | チームマネジメント | ・チームの目標を管理し、目標達成に導くことができる |
| | ネゴシエーション | ネゴシエーション | ・理論的思考を持ち、(地域やトップとの)折衝、交渉、取引の技術やプロセスを理解し、実践することができる |
| コーディネーション | | ・自身/自組織内に、サービス企画に関する知識/スキルが無い場合、それを有している第三者/組織の存在を知っている ・第三者/組織に対し、自身/自組織が有していない知識/スキルに関して、教えを請う/協力を要請することができる | |



プロセス2：地域情報化企画策定（3／5）

●地域情報化企画策定プロセス…地域情報化戦略立案サブプロセス

「地域情報化戦略立案サブプロセス」は、地域課題に対する解決方法としての、地域活性化全体戦略を立案するプロセスとして位置付けられます。

| スキル項目 | | 企画プロセス | 地域情報化戦略立案策定 |
|-----------|------------|---|--|
| テクニカルスキル | プランニング | 情報収集 | ・ 事業化に向けた情報収集（類似事例や行政の政策・施策、地域資源に関する情報）を行う（現地視察等から）ことができる |
| | | 情報分析 | ・ 収集した情報を分析して事業化のために必要となる人員、資源、資金を明示することができる ・ 課題解決に向けた地域情報化の目標の設定を行うことができる |
| | | 戦略・計画立案 | ・ 地域の課題解決に向けたグランドデザイン並びに戦略を策定することができる ・ 地域の課題解決に向けた戦略を、他の施策と矛盾せず、一貫した全体方針に関連付けて策定することができる ・ 外部環境あるいは自組織における強みを考慮した事業戦略の策定を行うことができる |
| | 情報システム | 情報システム調達・構築・運用 | ・ 現状の情報システム環境（システム構成、利用技術等）を把握することができる |
| | | 情報リテラシー | ・ 同種の技術の比較検討を行う事ができる |
| | 広報・PR | | ・ 関係者の理解を得るために、地域情報化の意義の説明を行うことができる |
| | 財務会計 | 資金調達計画/実行 | ・ 出資者／予算化／補助金や助成金等に関する情報を収集し、資金調達の種類や方法の決定を行うことができる |
| | | 予算管理 | — |
| | マーケティング | | ・ 対象事業のビジネスモデル／収益モデルの策定を行なうことができる |
| | 関係者折衝・顧客管理 | | ・ 事業化に係る関係者（行政・民間事業者・NPO・学校など）とのリレーション構築あるいは折衝を行う |
| 人材開発・管理 | | ・ 検討に必要なスキルや人材の定義を行い、教育計画の策定を行うことができる ・ 教育計画に基づいて、要員に対して必要な育成・教育を行うことができる | |
| 法務 | | ・ 事業企画案策定において、法的な根拠／規制を踏まえたサービス企画を行なうことができる | |
| プロジェクト管理 | | ・ 事業企画段階におけるリスクを評価し、必要な対応策の策定を行うことができる | |
| ヒューマンスキル | コミュニケーション | プレゼンテーション | — |
| | | 状況対応 | — |
| | リーダーシップ | リーダーシップ | ・ 企画に携わる複数主体間と、信頼関係の上に乗って目標を管理し、目標達成に導く |
| | | メンバーの育成 | ・ メンバに対する動機付けを行い、その育成を支援することができる |
| | | チームマネジメント | ・ チームの目標を管理し、目標達成に導くことができる |
| | ネゴシエーション | ネゴシエーション | ・ 理論的思考を持ち、（地域やトップとの）折衝、交渉、取引の技術やプロセスを理解し、実践することができる |
| コーディネーション | | ・ 自身／自組織内に、サービス企画に関する知識／スキルが無い場合、それを有している第三者／組織の存在を知っている ・ 第三者／組織に対し、自身／自組織が有していない知識／スキルに関して、教えを請う／協力を要請することができる | |



プロセス2：地域情報化企画策定（4／5）

●地域情報化企画策定プロセス…地域情報化計画策定サブプロセス

「地域情報化計画策定サブプロセス」は、地域活性化全体戦略に基づき、具体化の手段として、ICT が活用可能な領域を抽出し、地域情報化計画を策定するプロセスとして位置付けられます。

| スキル項目 | | 企画プロセス | 地域情報化計画策定 |
|----------|------------|---|---|
| テクニカルスキル | プランニング | 情報収集 | — |
| | | 情報分析 | — |
| | | 戦略・計画立案 | <ul style="list-style-type: none"> 地域の課題解決に向けた計画の策定を行うことができる 事業テーマを設定し、事業概要の検討を行うことができる 事業概要書の作成を行うことができる 数値あるいは評価可能な形式で事業化の計画策定を行うことができる 事業化全体のスケジュールの策定を行うことができる 事業計画書等の作成を行うことができる 情報システムに関するシステム構想書を作成することができる |
| | 情報システム | 情報システム調達・構築・運用 | <ul style="list-style-type: none"> 事業で必要な情報システムの定義を行うことができる |
| | | 情報リテラシー | <ul style="list-style-type: none"> 各種資料作成のための参考資料をインターネット検索等で収集する事ができる 各種資料をワープロソフトやグラフ作成ソフト等を用いて作成する事ができる |
| | 広報・PR | <ul style="list-style-type: none"> 関係者の理解を得るために、地域情報化の意義と計画の説明を行うことができる 協力者のネームバリューを利用した信頼性向上のためのPRを行うことができる | |
| | 財務会計 | 資金調達計画/実行 | <ul style="list-style-type: none"> 事業に必要な資金の総額、内訳の明確化を行うことができる 事業収支シミュレーションの実施によって、資金調達計画の策定を行うことができる 調達を行うスキームや方法の決定を行うことができる |
| | | 予算管理 | <ul style="list-style-type: none"> 予算管理に係る目標と計画の策定を行うことができる |
| | マーケティング | <ul style="list-style-type: none"> 事業化におけるサービス開発のマーケティングに係る計画を策定することができる 事業における受益者の明確化、予定される受益者数の見積もりを行うことができる | |
| | 関係者折衝・顧客管理 | <ul style="list-style-type: none"> 関係者とのリレーションシップ構築を行うことができる | |
| | 人材開発・管理 | <ul style="list-style-type: none"> 検討に必要なスキルや人材の定義を行い、教育計画の策定を行うことができる 教育計画に基づいて、要員に対して必要な育成・教育を行うことができる | |
| | 法務 | <ul style="list-style-type: none"> 事業企画案策定において、法的な根拠/規制を踏まえたサービス企画を行なうことができる | |
| | プロジェクト管理 | <ul style="list-style-type: none"> 事業企画段階におけるリスクを評価し、必要な対応策の策定を行うことができる | |
| | ヒューマンスキル | コミュニケーション | プレゼンテーション |
| 状況対応 | | | — |
| リーダーシップ | | リーダーシップ | <ul style="list-style-type: none"> 企画に携わる複数主体間と、信頼関係の上に立って目標を管理し、目標達成に導く |
| | | メンバーの育成 | <ul style="list-style-type: none"> メンバに対する動機付けを行い、その育成を支援することができる |
| | | チームマネジメント | <ul style="list-style-type: none"> チームの目標を管理し、目標達成に導くことができる |
| ネゴシエーション | | ネゴシエーション | <ul style="list-style-type: none"> 理論的思考を持ち、(地域やトップとの)折衝、交渉、取引の技術やプロセスを理解し、実践することができる |
| | コーディネーション | <ul style="list-style-type: none"> 自身/自組織内に、サービス企画に関する知識/スキルが無い場合、それを有している第三者/組織の存在を知っている 第三者/組織に対し、自身/自組織が有していない知識/スキルに関して、教えを請う/協力を要請することができる | |



プロセス2：地域情報化企画策定（5／5）

●地域情報化企画策定プロセス…地域情報化企画検討内容の承認サブプロセス

「地域情報化企画検討内容の承認サブプロセス」は、企画の達成状況を確認し、次のプロセスへ進むことを承認、もしくは改善を行うプロセスに位置付けられます。

| スキル項目 | | 企画プロセス | 地域情報化企画検討内容の承認 |
|-----------|------------|---|--|
| テクニカルスキル | プランニング | 情報収集 | — |
| | | 情報分析 | — |
| | | 戦略・計画立案 | — |
| | 情報システム | 情報システム調達・構築・運用 | — |
| | | 情報リテラシー | ・説明のための分かり易い資料をパソコン上のワープロソフト等を利用して作成することができる |
| | 広報・PR | | — |
| | 財務会計 | 資金調達計画/実行 | — |
| | | 予算管理 | — |
| | マーケティング | | — |
| | 関係者折衝・顧客管理 | | — |
| | 人材開発・管理 | | — |
| | 法務 | | — |
| プロジェクト管理 | | — | |
| ヒューマンスキル | コミュニケーション | プレゼンテーション | ・意思決定権者に対し、正確且つ納得感のある地域情報化計画案について説明することができる ・説明のための分かり易い資料を作成することができる |
| | | 状況対応 | — |
| | リーダーシップ | リーダーシップ | — |
| | | メンバーの育成 | — |
| | | チームマネジメント | — |
| | ネゴシエーション | ネゴシエーション | — |
| コーディネーション | | ・情報化の必要性の理解が進まないトップ層に対しては、先進事例視察等、ICT利活用状況を直接体験させるなどの手段で、理解の促進を図ることができる | |



プロセス3：地域情報化計画（1／5）

本プロセスは、企画策定後、地域活性化に資する情報技術（ICT）を利活用した、事業／サービスを具体的に推進するための、計画を策定するプロセスに位置付けられます。

地域情報化計画策定プロセスは、「(事業計画実施のための) リソース設計・調達」、「サービス設計」、「(具体的な事業実現のための) 財源の確保」、「住民理解の取得」、「地域情報化計画内容の承認」の5つのサブプロセスにて構成されます。

●地域情報化計画プロセス… (計画実施のための) リソース設計・調達サブプロセス

「計画策定のためのリソース設計・調達サブプロセス」は、計画に必要なチームの要員やモノ・カネの設計・調達を行うプロセスに位置付けられます。

| スキル項目 | | 計画プロセス | リソース設計・調達 |
|-----------|------------|--|---|
| テクニカルスキル | プランニング | 情報収集 | ・事業計画を策定することの出来る組織／人に関する情報を収集し、特定することができる |
| | | 情報分析 | — |
| | | 戦略・計画立案 | ・事業計画を立案するために必要な能力を定義し、適切な人員を計画メンバーとして調達することができる |
| | 情報システム | 情報システム 調達・構築・運用 | ・特に、情報システム計画を立案するために必要な能力を定義し、適切な人員を計画メンバーとして調達することができる |
| | | 情報リテラシー | — |
| | 広報・PR | | — |
| | 財務会計 | 資金調達計画/実行 | — |
| | | 予算管理 | — |
| | マーケティング | | — |
| | 関係者折衝・顧客管理 | | — |
| | 人材開発・管理 | | ・事業計画策定に必要なスキルや人材の定義を行い、人員計画及び教育計画の策定を行うことができる ・人員計画に基づいて、人員の確保を行うことができる ・教育計画に基づいて、要員に対して必要な育成・教育を行うことができる |
| | 法務 | | — |
| | プロジェクト管理 | | — |
| ヒューマンスキル | コミュニケーション | プレゼンテーション | — |
| | | 状況対応 | — |
| | リーダーシップ | リーダーシップ | ・具体的な事業計画フェーズにおける、直接利害が発生する事が想定される複数主体間と、信頼関係の上に立って目標を管理し、目標達成に導くことができる |
| | | メンバーの育成 | ・メンバーに対する動機付けを行い、その育成を支援することができる |
| | | チームマネジメント | ・チームの目標を管理し、目標達成に導くことができる |
| | ネゴシエーション | ネゴシエーション | ・ICTに係る専門技術／知識に関しては、外部のS i e r 等と随時協力体制が図れるように関係性を構築することができる |
| コーディネーション | | ・自身／自組織内に、事業計画立案に関する知識スキルが無い場合、それを有している第三者／組織の存在を知っている ・第三者／組織に対し、自身／自組織が有していない知識／スキルに関して、教えを請う／協力を要請することができる | |

現状調査

企画

計画

開発

運営

評価

プロセス3：地域情報化計画（2／5）

●地域情報化計画プロセス… サービス設計サブプロセス

「サービス設計サブプロセス」は、サービス受益者に配慮したサービスを設計するプロセスとして位置付けられます。

| スキル項目 | | 計画プロセス | サービス設計 | |
|----------|------------|---|---|---|
| テクニカルスキル | プランニング | 情報収集 | ・ 予定する事業の類似事例等の情報収集を行うことができる ・ 事業の関係者に対するヒアリング調査を設計・実施し、情報収集を行うことができる | |
| | | 情報分析 | ・ 収集した情報より、事業展開の検討を行うことができる | |
| | | 戦略・計画立案 | ・ 提供するサービスについて優先度を評価し、適切なリリース計画の策定を行うことができる ・ 事業において受益者に対して提供するサービスの詳細設計の策定を行うことができる ・ 事業継続を考慮したサービススキームの設計を行うことができる ・ 外部環境あるいは自組織における強みを考慮したサービス戦略の策定を行うことができる ・ 関係者全員に対するインセンティブ設計を行うことができる ・ サービスの詳細設計書の作成を行うことができる ・ 全体の事業計画を策定することができる | |
| | 情報システム | 情報システム 調達・構築・運用 | ・ 提供するサービスの性質や条件による、情報システムで留意すべき事項の特定を行うことができる | |
| | | 情報リテラシー | ・ ICTを利用した新事業あるいは新サービスの検討を行うことができる | |
| | 広報・PR | ・ 事業に係るプロモーション案（PRの狙い／対象者／プロモーション媒体／プロモーション方法等）を策定する | | |
| | 財務会計 | 資金調達計画/実行 | 【事業企画フェーズよりも詳細な】 ・ 事業に必要な資金の総額、内訳の明確化を行うことができる ・ 事業収支シミュレーションの実施によって、資金調達計画の策定を行うことができる ・ 調達を行うスキームや方法の決定を行うことができる | |
| | | 予算管理 | ・ 予算管理に係る目標と計画の策定を行うことができる | |
| | マーケティング | ・ 事業におけるマーケティング目標の設定を行うことができる ・ サービスの価値設計を行うことができる ・ 実現性の高いサービス設計を行うことができる ・ 受益者から対価を得る場合、その適切な価格設定を行うことができる | | |
| | 関係者折衝・顧客管理 | ・ 関係者に対して事業の説明と交渉を行うことができる ・ 事業の営業を行うことができる ・ 多様なバックグラウンドを持つ者とのリレーション構築を行うことができる | | |
| | 人材開発・管理 | ・ 検討に必要なスキルや人材の定義を行い、教育計画の策定を行うことができる ・ 教育計画に基づいて、要員に対して必要な育成・教育を行うことができる | | |
| | 法務 | - | | |
| | プロジェクト管理 | - | | |
| | ヒューマンスキル | コミュニケーション | プレゼンテーション | - |
| 状況対応 | | | - | |
| リーダーシップ | | リーダーシップ | ・ 具体的な事業計画フェーズにおける、直接利害が発生する事が想定される複数主体間と、信頼関係の上に乗って目標を管理し、目標達成に導くことができる | |
| | | メンバーの育成 | ・ メンバに対する動機付けを行い、その育成を支援することができる | |
| | | チームマネジメント | ・ チームの目標を管理し、目標達成に導くことができる | |
| ネゴシエーション | ネゴシエーション | ・ 理論的思考を持ち、(地域やトップとの) 折衝、交渉、取引の技術やプロセスを理解し、実践することができる | | |
| | コーディネーション | ・ 自身/自組織内に、事業計画立案に関する知識/スキルが無い場合、それを有している第三者/組織の存在を知っている ・ 第三者/組織に対し、自身/自組織が有していない知識/スキルに関して、教を請う/協力を要請することができる | | |



プロセス3：地域情報化計画（3／5）

●地域情報化計画プロセス…財源の確保サブプロセス

「地域情報化を実現するための財源の確保サブプロセス」は、国や自治体の補助金、または民間企業による支援、寄付などの検討や調整を行い、必要な財源を確保する（自治体が主体となって実施する場合には、次年度の予算化のための予算請求手続きなどが含まれる）プロセスに位置付けられます。

| スキル項目 | | 計画プロセス | 財源の確保 |
|----------|------------|--|--|
| テクニカルスキル | プランニング | 情報収集 | ・事業に適用可能性のある助成金や補助金などに関する情報収集を行うことができる ・事業資金の調達や支援に関する情報収集を行うことができる |
| | | 情報分析 | ・実現可能性の高い資金調達の種類や方法の精査を行うことができる |
| | | 戦略・計画立案 | ・全体の事業計画のうち官からの支援（補助金や自治体の拠出）と民からの投資とに切り分けることができる |
| | 情報システム | 情報システム 調達・構築・運用 | — |
| | | 情報リテラシー | ・財源確保のためにICT（インターネット等）を利用して効果的な情報収集や交渉を行うことができる |
| | 広報・PR | | ・関係者／関係者外に対して、事業計画の効果的なPRを行うことができる |
| | 財務会計 | 資金調達計画/実行 | ・より詳細な資金計画の策定を行うことができる ・事業に適用可能性のある補助金や助成金の申請を行うことができる ・事業に賛同する法人（民間）スポンサー開拓・選定のための手法を知り、実行できる ・成立確度の高い予算申請を行うことができる ・（単独）予算の申請に必要な手続き等を理解し、実行することができる |
| | | 予算管理 | ・予算管理に係る目標と計画の策定を行うことができる |
| | マーケティング | | — |
| | 関係者折衝・顧客管理 | | ・関係者に対して事業の説明と具体的役割分担に関する交渉を行うことができる ・事業における協力者との協力体制（資源の拠出等）の構築を行うことができる |
| | 人材開発・管理 | | ・検討に必要なスキルや人材の定義を行い、教育計画の策定を行うことができる ・教育計画に基づいて、要員に対して必要な育成・教育を行うことができる |
| | 法務 | | — |
| | プロジェクト管理 | | ・計画に基いた資金の確保を行うことができる ・資金確保におけるリスクを評価し、必要な対応策の策定を行うことができる |
| | ヒューマンスキル | コミュニケーション | プレゼンテーション |
| 状況対応 | | | ・会議（コミュニケーション）の場を設定し、運営することができる |
| リーダーシップ | | リーダーシップ | ・具体的な事業計画フェーズにおける、直接利害が発生する事が想定される複数主体間と、信頼関係の上に立って目標を管理し、目標達成に導くことができる |
| | | メンバーの育成 | ・メンバに対する動機付けを行い、その育成を支援することができる |
| | | チームマネジメント | ・チームの目標を管理し、目標達成に導くことができる |
| ネゴシエーション | | ネゴシエーション | — |
| | コーディネーション | ・中央の各種補助事業や助成金に関する情報を有している人物に、当該事業を助成対象とする様働きかけることができる | |

現状調査

企画

計画

開発

運営

評価

プロセス3：地域情報化計画（4／5）

●地域情報化計画プロセス…住民理解の取得サブプロセス

「地域情報化を推進して行くための住民理解の取得サブプロセス」は、地域住民やその他関係者に対して、地域活性化（または情報化）の目的や趣旨を説明し、理解を得るプロセスに位置付けられます。

| スキル項目 | | 事業計画プロセス | 住民理解の取得 |
|-----------|------------|---|---|
| テクニカルスキル | プランニング | 情報収集 | ・サービス受益者となる住民に対し、当該サービスが真に住民の有する課題の解決に資するものであるかどうかについて情報収集（説明会の実施、デモンストレーションの実施等）を行なうことができる |
| | | 情報分析 | ・サービス受益者からの意見を分析し、サービス計画案が正当なものである事を確認することができる（受益者の意見を踏まえ、事業内容の見直しの必要な箇所を特定することができる） |
| | | 戦略・計画立案 | ・住民の理解が得られるような事業計画／サービス内容を策定することができる |
| | 情報システム | 情報システム調達・構築・運用 | — |
| | | 情報リテラシー | ・パソコン上のワープロソフト等を利用して、説明のための分かり易い資料を作成することができる |
| | 広報・PR | | ・事業の内容を受益者に対して効果的に説明を行うことができる |
| | 財務会計 | 資金調達計画/実行 | — |
| | | 予算管理 | — |
| | マーケティング | | — |
| | 関係者折衝・顧客管理 | | ・利害を有する住民等の事業に関する理解を得るため、説明会の開催を行うことができる |
| | 人材開発・管理 | | — |
| | 法務 | | — |
| プロジェクト管理 | | ・利害を有する住民等に係るリスクを評価し、必要な対応策の検討を行うことができる | |
| ヒューマンスキル | コミュニケーション | プレゼンテーション | ・地域住民に対し、サービスの概要、サービスによって得られるベネフィット等について説明することができる ・説明のための分かり易い資料を作成することができる |
| | | 状況対応 | — |
| | リーダーシップ | リーダーシップ | ・具体的な事業計画フェーズにおける、サービス受益者としてのみならず、直接利害が発生する事が想定される場合、信頼関係の上に立って目標を管理し、目標達成に導くことができる |
| | | メンバーの育成 | — |
| | | チームマネジメント | — |
| | ネゴシエーション | ネゴシエーション | ・常に受益者の事を考慮しつつも、一部に見られるクレーム的な人にも目的に沿って説明し、理解を得られることができる |
| コーディネーション | | — | |



プロセス3：地域情報化計画（5／5）

●地域情報化計画プロセス…計画内容の承認サブプロセス

「計画内容の承認サブプロセス」は、計画の達成状況を確認し、次のプロセスへ進むことを承認、もしくは改善を行うプロセスとして位置付けられます。

| スキル項目 | | 計画プロセス | 計画内容の承認 |
|-----------|------------|--------------------|---|
| テクニカルスキル | プランニング | 情報収集 | — |
| | | 情報分析 | — |
| | | 戦略・計画立案 | — |
| | 情報システム | 情報システム 調達・構築・運用 | — |
| | | 情報リテラシー | ・承認のための各種資料作成に関して、パソコン上のワープロソフトなどを活用した資料作成ができる |
| | 広報・PR | | — |
| | 財務会計 | 資金調達計画/実行 | — |
| | | 予算管理 | — |
| | マーケティング | | — |
| | 関係者折衝・顧客管理 | | — |
| | 人材開発・管理 | | — |
| | 法 務 | | — |
| プロジェクト管理 | | — | |
| ヒューマンスキル | コミュニケーション | プレゼンテーション | ・意思決定権者に対し、正確且つ納得感のある事業計画案について説明することができる ・説明のための分かり易い資料を作成することができる |
| | | 状況対応 | — |
| | リーダーシップ | リーダーシップ | — |
| | | メンバーの育成 | — |
| | | チームマネジメント | — |
| | ネゴシエーション | ネゴシエーション | — |
| コーディネーション | | — | |

現状調査

企画

計画

開発

運営

評価

プロセス4：地域情報化開発（1／4）

本プロセスは、計画策定後、地域情報化に資する情報技術（ICT）を利活用した、事業／サービスの具体的な開発を実行するプロセスに位置付けられます。

地域情報化開発プロセスは、「組織設計・整備」、「資源の確保」、「情報システムの整備」「開発結果の承認」の4つのサブプロセスにて構成されます。

●地域情報化開発プロセス…組織設計・整備サブプロセス

「組織設計・整備サブプロセス」は、サービス提供に必要な組織や要員の設計と整備を行うプロセスとして位置付けられます。

| スキル項目 | | 開発プロセス | 組織設計・整備 | |
|-----------|------------|--|---|--|
| テクニカルスキル | プランニング | 情報収集 | ・事業展開上、適切な組織形態について情報収集を行うことができる | |
| | | 情報分析 | — | |
| | | 戦略・計画立案 | ・事業継続を考慮した組織設計を行うことができる ・外部環境あるいは自組織における強みを考慮した組織の設計を行うことができる ・関係者に役割／メリット等が生じる組織設計を行うことができる ・事業の制度や組織設計に関する計画書の作成を行うことができる ・法人設立の場合、設立趣意書等必要書類の作成を行うことができる | |
| | 情報システム | 情報システム調達・構築・運用 | — | |
| | | 情報リテラシー | — | |
| | 広報・PR | ・広報・PR戦略に沿った具体的な実行計画やイベント企画を推進するための組織整備ができる | | |
| | 財務会計 | 資金調達計画/実行 | ・事業開発に係る、費用のシミュレーションを行うことができる | |
| | | 予算管理 | ・プロジェクトにおける予算管理を行うことができる | |
| | マーケティング | — | | |
| | 関係者折衝・顧客管理 | ・事業における協力者とのリレーション構築を行うことができる ・事業の制度等に関して関係者と合意形成を行うことができる | | |
| | 人材開発・管理 | ・事業に必要なスキルや人材の定義を行い、人員計画の策定・実行を行うことができる ・事業運営に必要なスキルや定義をもとに、面談などの適切な方法によってアサインメントを行うことができる ・メンバーの育成計画や教育制度の設計を行うことができる ・運営担当者の期待するベネフィットを考慮した事業アサインを行うことができる ・運営担当者に事業のミッションを説明して動機付けを行うことができる | | |
| | 法務 | ・事業目的に合致した法人（NPO等に代表される運営団体）を設立することができる ・利害関係者との契約内容の整理を行い、契約締結後は契約管理を行うことができる | | |
| | プロジェクト管理 | ・事業開発におけるプロジェクトマネジメントを行うことができる ・事業の制度や組織設計におけるリスクを評価し、必要な対応策の策定を行うことができる | | |
| ヒューマンスキル | コミュニケーション | プレゼンテーション | ・事業開発に伴う、関係者の役割分担を正確に伝えることができる | |
| | | 状況対応 | ・事業の開始にあたって、関係者や事業を行うメンバーへの説明会などを行うことができる | |
| | リーダーシップ | リーダーシップ | ・信頼関係の上で目標を管理し、目標達成に導くことができる | |
| | | メンバーの育成 | ・メンバーに対する動機付けを行い、その育成を支援することができる | |
| | | チームマネジメント | — | |
| | ネゴシエーション | ネゴシエーション | ・理論的思考を持ち、（地域やトップとの）折衝、交渉、取引の技術やプロセスを理解し、組織整備を実践することができる | |
| コーディネーション | | ・関係者（地域やトップ）の期待するベネフィットを考慮した対応を行い、組織整備に必要な資源のコーディネーション・リレーションを構築することができる | | |



プロセス4：地域情報化開発（2／4）

●地域情報化開発プロセス…資源の確保サブプロセス

「資源の確保サブプロセス」は、サービスの提供に必要な資源（要員や資金、情報システム以外の設備や特殊な技能、許認可など）の検討や調達に向けた調整を行うプロセスとして位置付けられます。

| スキル項目 | | 事業開発プロセス | 資源の確保 |
|----------|--|--|---|
| テクニカルスキル | プランニング | 情報収集 | ・事業運営上の必要なリソースの明確化を行うことができる ・調達先候補を選定し、見積情報等の収集を行うことができる |
| | | 情報分析 | ・取得した見積等の比較を行い、調達先の選定を行うことができる |
| | | 戦略・計画立案 | ・事業におけるリソースを明確にし、調達計画の策定を行うことができる ・リソース調達計画書の作成を行うことができる |
| | 情報システム | 情報システム 調達・構築・運用 | — |
| | | 情報リテラシー | — |
| | 広報・PR | — | |
| | 財務会計 | 資金調達計画/実行 | ・事業の立上げに必要な資金を調達することができる |
| | | 予算管理 | ・投資対効果の評価を行うことができる ・プロジェクトにおける予算管理を行うことができる |
| | マーケティング | — | |
| | 関係者折衝・顧客管理 | ・協力者に対して事業で必要なリソース提供の協力依頼や交渉を行うことができる ・協力者の期待するベネフィットを考慮した交渉を行うことができる | |
| | 人材開発・管理 | — | |
| | 法務 | ・調達対象の契約内容の妥当性判断を行い、契約管理を行うことができる | |
| プロジェクト管理 | ・リソースの調達におけるリスクを評価し、必要な対応策の策定を行うことができる | | |
| ヒューマンスキル | コミュニケーション | プレゼンテーション | — |
| | | 状況対応 | ・会議（コミュニケーション）の場を設定し、情報システムの工程管理を適切に運営することができる |
| | リーダーシップ | リーダーシップ | ・信頼関係の上に乗って目標を管理し、目標達成に導くことができる |
| | | メンバーの育成 | ・メンバに対する動機付けを行い、その育成を支援することができる |
| | | チームマネジメント | — |
| ネゴシエーション | ネゴシエーション | ・理論的思考を持ち、（地域やトップとの）折衝、交渉、取引の技術やプロセスを理解し、事業開発に必要な資源の確保を実践することができる | |
| | コーディネーション | ・関係者（地域やトップ）の期待するベネフィットを考慮した対応を行い、事業開発に必要な資源のコーディネーション・リレーションを構築することができる | |

現状調査

企画

計画

開発

運営

評価

プロセス4：地域情報化開発（3／4）

●地域情報化開発プロセス…情報システムの整備サブプロセス

「情報システムの整備サブプロセス」は、サービスの提供に必要な情報システム（アプリケーションやコンテンツを含む）の仕様を策定し、構築あるいは調達を行うプロセスとして位置付けられます。

| スキル項目 | | 開発プロセス | 情報システムの整備 | |
|----------|------------|---|---|---|
| テクニカルスキル | プランニング | 情報収集 | ・目的に応じた技術やサービス・製品に関する情報の収集を行うことができる | |
| | | 情報分析 | — | |
| | | 戦略・計画立案 | — | |
| | 情報システム | 情報システム 調達・構築・運用 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報システムの技術動向、及び現在の情報システムに精通し、構築に必要なシステムに反映させることができる ・情報システムの要件定義や外部設計を行うことができる ・事業の性質や状況、または組織の利活用能力に応じたシステムの仕様の検討を行うことができる ・不正利用やセキュリティを考慮したシステムの仕様の検討を行うことができる ・整備する情報システムに適した事業者の選定方法あるいは調達法式の検討を行うことができる ・事業に必要な情報システムを調達するための仕様を策定することができる ・事業に必要な情報システムの構築を行うことができる ・外部に委託した開発や導入業務の妥当性を判断することができる | |
| | | 情報リテラシー | — | |
| | 広報・PR | — | — | |
| | 財務会計 | 資金調達計画/実行 | — | — |
| | | 予算管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報システム投資における投資対効果の評価を行うことができる ・プロジェクトにおける予算管理を行うことができる | — |
| | マーケティング | <ul style="list-style-type: none"> ・事業目的に応じた情報システムやコンテンツの開発あるいは調達を行うことができる | — | |
| | 関係者折衝・顧客管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・事業運営上必要な情報システムやコンテンツ準備について、関係者と折衝を行うことができる | — | |
| | 人材開発・管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報システム構築のプロジェクトメンバーのモチベーションマネジメントを行うことができる | — | |
| | 法務 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報システムまたはコンテンツの開発等に係る契約内容の妥当性判断を行うことができる | — | |
| | プロジェクト管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報システム構築における適切なプロジェクトマネジメントを行うことができる ・プロジェクトの進捗の是非を判断し、妥当性の判断を行うことができる ・プロジェクトの進捗その他の問題が判明した際に、適切な対策の策定、対応の指示を行うことができる | — | |
| | ヒューマンスキル | コミュニケーション | プレゼンテーション | — |
| 状況対応 | | | ・会議（コミュニケーション）の場を設定し、情報システムの工程管理を適切に運営することができる | |
| リーダーシップ | | — | — | |
| ネゴシエーション | | — | — | |



プロセス4：地域情報化開発（4／4）

●地域情報化開発プロセス…開発実施結果の承認サブプロセス

「開発実施結果の承認サブプロセス」は、開発の達成状況を確認し、次のプロセスへ進むことを承認、もしくは改善を行うプロセスとして位置付けられます。

| スキル項目 | | 計画プロセス | 開発実施結果の承認 |
|-----------|------------|----------------|--|
| テクニカルスキル | プランニング | 情報収集 | — |
| | | 情報分析 | — |
| | | 戦略・計画立案 | — |
| | 情報システム | 情報システム調達・構築・運用 | — |
| | | 情報リテラシー | ・事業開発達成状況について、分かり易い資料をパソコン上のワープロソフトや表計算ソフトを活用して作成することができる |
| | 広報・PR | | — |
| | 財務会計 | 資金調達計画/実行 | — |
| | | 予算管理 | — |
| | マーケティング | | — |
| | 関係者折衝・顧客管理 | | — |
| | 人材開発・管理 | | — |
| | 法務 | | — |
| プロジェクト管理 | | — | |
| ヒューマンスキル | コミュニケーション | プレゼンテーション | ・意思決定権者に対し、正確に事業の開発状況について説明することができる ・説明のための分かり易い資料を作成することができる |
| | | 状況対応 | — |
| | リーダーシップ | リーダーシップ | — |
| | | メンバーの育成 | — |
| | | チームマネジメント | — |
| | ネゴシエーション | ネゴシエーション | — |
| コーディネーション | | — | |

プロセス5：運営（1／2）

本プロセスは、地域情報化事業／サービスを開発後、実際に、当該事業／サービスを地域にて運営するプロセスに位置付けられます。

運営プロセスは、「運営」、「情報システムの運用・保守」の2つのサブプロセスにて構成されます。

●運営プロセス…運営サブプロセス

「運営サブプロセス」は、適切な資源の配分とコントロールを行い、地域情報化を目的とした事業／サービス、あるいは活動を運営するプロセスとして位置付けられます。

| スキル項目 | | 運営プロセス | 運営 |
|----------|------------|---|---|
| テクニカルスキル | プランニング | 情報収集 | <ul style="list-style-type: none"> 事業運営状況のモニタリングを行うことができる サービス受益者から、サービスに対する満足度／問題点を収集する手段（CS調査等）を知っている／行なうことができる |
| | | 情報分析 | <ul style="list-style-type: none"> 事業運営における課題を把握し、対応策の検討を行うことができる |
| | | 戦略・計画立案 | <ul style="list-style-type: none"> 事業において提供しているサービスについて、把握した課題点を踏まえ、サービスの改善に関する計画を立案することができる |
| | 情報システム | 情報システム調達・構築・運用 | <ul style="list-style-type: none"> 事業の目的に合致した情報システムの円滑なサービス、運営を行うことができる |
| | | 情報リテラシー | <ul style="list-style-type: none"> 事業運営の効率化のためにICTの有効利用を行うことができる |
| | 広報・PR | <ul style="list-style-type: none"> 事業のPRのために効果的な手法を選択し、広報活動を行うことができる 広報・PRの実行計画やイベント企画を実行することができる 他地域への伝播を目的とし情報発信を行うことができる 関係者に対して適切な事業報告を行うことができる | |
| | 財務会計 | 資金調達計画/実行 | <ul style="list-style-type: none"> 事業の継続に必要な資金に関する調達計画の策定と実行を行うことができる 中長期を視野に入れた事業収益の計画と管理を行うことができる |
| | | 予算管理 | <ul style="list-style-type: none"> 効率的な事業予算のマネジメントを行うことができる 事業運営状況のモニタリングを実施し、必要なタイミングで開示を行うことができる |
| | マーケティング | <ul style="list-style-type: none"> ターゲットとなるサービス受益者を明確化し、その範囲を特定することができる サービス受益者の満足度向上施策を行うことができる | |
| | 関係者折衝・顧客管理 | <ul style="list-style-type: none"> サービス受益者、提供者の質または量の変化を測定し、対応を行うことができる 異質なバックグラウンドを持つ者とのリレーション構築を行うことができる 中立的な視点に基づいた言動によって、折衝の目的を遂行することができる | |



プロセス5：運営（1／2）

| スキル項目 | | 運営プロセス | 運営 |
|----------|-----------|-----------|---|
| テクニカルスキル | 人材開発・管理 | | <ul style="list-style-type: none"> ・運営担当者の期待するベネフィットを考慮した事業アサインを行うことができる ・運営担当者のモチベーションマネジメントを行うことができる ・他地域への伝播を行う者や後継者候補となるメンバーの育成を行うことができる ・人材育成を考慮した適切な権限委譲を行うことができる ・それぞれのメンバが有する知識やスキルを評価し、必要な学習分野を特定することができる ・メンバに対して研修等の教育を行い、育成を図ることができる ・人材育成のために効果的な教材を作成することができる ・良好な事業運営の維持を考慮したメンバの引継ぎ計画を企画、実行することができる |
| | 法 務 | | <ul style="list-style-type: none"> ・利害関係者との契約内容の整理を行うことができる |
| | プロジェクト管理 | | <ul style="list-style-type: none"> ・事業運営におけるリスクを評価し、必要な対応策の策定を行うことができる |
| ヒューマンスキル | コミュニケーション | プレゼンテーション | — |
| | | 状況対応 | <ul style="list-style-type: none"> ・良好な関係、雰囲気を維持したファシリテーションを行うことができる ・中立性、公平性、透明性を担保した対応を行うことができる ・多様な価値観を許容し、対応を行うことができる ・相手の立場に立ち、自分の役割に応じた適切な対応ができる ・適切なとき、適切な人への報告、連絡、相談ができる |
| | リーダーシップ | リーダーシップ | <ul style="list-style-type: none"> ・信頼関係の上に乗って目標を管理し、目標達成に導くことができる |
| | | メンバーの育成 | <ul style="list-style-type: none"> ・メンバに対する動機付けを行い、その育成を支援することができる ・事業運営の意義や事業運営活動への参加メリットを説明することで普及啓発を行い、教育することができる |
| | ネゴシエーション | チームマネジメント | — |
| | | ネゴシエーション | <ul style="list-style-type: none"> ・理論的思考を持ち、(地域やトップとの) 折衝、交渉、取引の技術やプロセスを理解し、実践することができる |
| | | コーディネーション | <ul style="list-style-type: none"> ・関係者(地域やトップ)の期待するベネフィットを考慮した対応を行い、コーディネーション・リレーションを構築することができる |

現状調査

企画

計画

開発

運営

評価

プロセス5：運営（2／2）

●運営プロセス…情報システム運用・保守サブプロセス

「情報システム運用・保守サブプロセス」は、事業に必要な情報システムの運用・保守のマネジメントを行うプロセスとして位置付けられます。

| スキル項目 | | 運営プロセス | 情報システム運用・保守 |
|----------|------------|---|--|
| テクニカルスキル | プランニング | 情報収集 | ・ 情報システム運用・保守の委託事業者に対して、報告書の作成指示を行うことができる ・ 情報システムの有効性やセキュリティ等を判断するための情報の収集を行うことができる |
| | | 情報分析 | ・ 保守・運用に関する報告書や収集した情報によって、情報システムの有効性やセキュリティ等の評価を行うことができる |
| | | 戦略・計画立案 | ・ 情報システムに必要な更改計画の策定を行うことができる |
| | 情報システム | 情報システム調達・構築・運用 | ・ 事業の環境変化等に応じて、サービスに係る情報システムの修正、変更を適切に行うことができる ・ 事業運営に必要な保守・運用要件の定義を行うことができる ・ 情報資産を定義し、必要なセキュリティ対策を行うことができる |
| | | 情報リテラシー | — |
| | 広報・PR | | ・ 関係者に対して、情報セキュリティ施策等に関する説明を行うことができる |
| | 財務会計 | 資金調達計画/実行 | — |
| | | 予算管理 | — |
| | マーケティング | | — |
| | 関係者折衝・顧客管理 | | ・ 保守事業者とSLAを含む保守・運用契約の締結を行うことができる |
| | 人材開発・管理 | | ・ 情報セキュリティ事故を防止するための要員管理を行うことができる |
| | 法務 | | ・ 情報システムの運用・保守に係る契約内容の妥当性判断を行うことができる |
| プロジェクト管理 | | ・ 情報システムの運用におけるリスクを評価し、必要な対応策の策定を行うことができる | |



プロセス5：運営（2／2）

| スキル項目 | | 運営プロセス | 情報システム運用・保守 |
|-----------|-----------|-----------|--|
| ヒューマンスキル | コミュニケーション | プレゼンテーション | — |
| | | 状況対応 | — |
| | リーダーシップ | リーダーシップ | — |
| | | メンバーの育成 | ・メンバに対する動機付けを行い、その育成を支援することができる ・システム運用・保守の意義や、そのメリットを説明することで普及啓発を行い、教育することができる |
| | | チームマネジメント | — |
| | ネゴシエーション | ネゴシエーション | — |
| コーディネーション | | — | |

現状調査

企画

計画

開発

運営

評価

プロセス6：評価（1／2）

本プロセスは、地域情報化事業において必要となる、各プロセスが適切に遂行されたかを評価するとともに、実際に提供された、地域情報化事業が、サービス受益者にとって適切なものであるかを評価するプロセスに位置付けられます。また、こうした評価を通じて、今後の地域情報化事業の改善ポイントを抽出し、更なる地域情報化事業の高度化を検討するプロセスに位置付けられます。

評価プロセスは、「地域情報化事業提供に至るまでのプロセス評価」、「地域情報化事業の評価・改善」の2つのサブプロセスにて構成されます。

●評価プロセス…地域情報化事業提供に至るまでのプロセス評価

「地域情報化事業提供に至るまでのプロセス評価サブプロセス」は、プロジェクトマネジメントを中心とした、サービス提供に至る工程に関する評価を行うプロセスとして位置付けられます。

| スキル項目 | | 評価プロセス | プロセス評価 |
|----------|------------|--|--|
| テクニカルスキル | プランニング | 情報収集 | ・各プロセスにおいて、予め取得すべき評価情報を定義し、実際に取得することができる |
| | | 情報分析 | ・プロセス毎に収集された情報を理解し、評価を行なうことができる |
| | | 戦略・計画立案 | ・各プロセスにおける評価結果をもとに、ムダやムリの原因を分析し、今後の改善ポイントを抽出することができる ・プロセス毎の実態報告書の作成を行うことができる |
| | 情報システム | 情報システム 調達・構築・運用 | ・最新の技術動向やサービスを注視し、今後の開発環境や、開発ツールについての改善検討を行うことができる |
| | | 情報リテラシー | ・地域情報化事業／サービスの評価結果をパソコン上の表計算ソフトや、ワープロソフトを利用して、プロセス毎の問題点の抽出等を明確にした報告書を作成することができる |
| | 広報・PR | ・地域情報化事業／サービス提供前の広報活動の内容の妥当性や費用対効果を評価することができる | |
| | 財務会計 | 資金調達計画/実行 | ・各プロセスにおいて、費用面からみた、ムリ、ムダが無いかを確認したうえで、評価することができる |
| | | 予算管理 | ・システム投資を含めた投資対効果の評価を行うことができる |
| | マーケティング | — | |
| | 関係者折衝・顧客管理 | ・事業開発して行く上で、必要な関係者と折衝を行い、合意形成を行うことができたかについて評価を行なうことができる ・想定される受益者に対する、十分な事前説明や、パブリック・インボルブメントが成されていたかについて評価を行なうことができる | |
| | 人材開発・管理 | ・企画～開発において、内部の人員が十分に成長したか、人的側面から見た評価を行なうことができる | |
| | 法務 | — | |
| | プロジェクト管理 | ・各プロセスにおいて、想定されていた期間内に、想定されていた予算の中で、円滑にプロセスが遂行されたか評価することができる ・また、問題箇所を抽出し、次の企画～開発に向けた改善ポイントを抽出することができる | |



プロセス6：評価（1／2）

| スキル項目 | | 評価プロセス | プロセス評価 |
|----------|-----------|-----------|--|
| ヒューマンスキル | コミュニケーション | プレゼンテーション | — |
| | | 状況対応 | — |
| | リーダーシップ | リーダーシップ | — |
| | | メンバーの育成 | ・メンバに対する動機付けを行い、その育成を支援することができる ・システム運用・保守の意義や、そのメリットを説明することで普及啓発を行い、教育することができる |
| | | チームマネジメント | — |
| | ネゴシエーション | ネゴシエーション | — |
| | | コーディネーション | — |

現状調査

企画

計画

開発

運営

評価

プロセス6：評価（2／2）

●評価プロセス…地域情報化事業の評価・改善サブプロセス

「地域情報化事業の評価・改善サブプロセス」は、事業の運営状況を定量的な指標で測定し、定期的に評価を行うとともに、評価に基づく事業の改善を行うプロセスとして位置付けられます。

| スキル項目 | | 計画プロセス | 評価・改善 |
|-----------|------------|--|--|
| テクニカルスキル | プランニング | 情報収集 | <ul style="list-style-type: none"> 事業評価を行うための指標あるいは情報の収集を行うことができる 事業評価の比較のため、類似事例等の情報収集を行うことができる 事業評価のため、サービスの受益者に対するアンケート調査を行うことができる 事業の外部環境に関する情報収集を行うことができる |
| | | 情報分析 | <ul style="list-style-type: none"> 事業内容、必要資源が有効に機能しているか、分析と評価を行うことができる 委託事業者が作成したシステム監査やセキュリティ監査報告書を理解し、評価を行うことができる |
| | | 戦略・計画立案 | <ul style="list-style-type: none"> 事業評価をもとに、今後の施策や計画の立案を行うことができる 外部環境あるいは自組織における強みを考慮した新たな事業戦略の策定を行うことができる 事業報告書の作成を行うことができる システム更改のためのシステム構想書などの作成を行うことができる |
| | 情報システム | 情報システム調達・構築・運用 | <ul style="list-style-type: none"> 事業評価をもとに、情報システムの改善や拡充の検討を行うことができる 最新の技術動向やサービスを注視し、事業の改善検討を行うことができる システム監査やセキュリティ監査など、必要に応じた情報システムの評価を行うことができる |
| | | 情報リテラシー | <ul style="list-style-type: none"> 地域情報化事業／サービスの評価結果をパソコン上の表計算ソフトや、ワープロソフトを利用して、次の改善に向けた報告書を作成することができる |
| | 広報・PR | | — |
| | 財務会計 | 資金調達計画/実行 | <ul style="list-style-type: none"> 情報システムの更改等のための資金調達計画の策定と実行を行うことができる |
| | | 予算管理 | <ul style="list-style-type: none"> システム投資を含めた投資対効果の評価を行うことができる |
| | マーケティング | | <ul style="list-style-type: none"> 設定したマーケティング目標の到達度に関する評価を行うことができる |
| | 関係者折衝・顧客管理 | | <ul style="list-style-type: none"> 事業の見直しや改善のため、必要な関係者と折衝を行い、合意形成を行うことができる 適切な事業者に対して、システム監査やセキュリティ監査の委託を行うことができる |
| 人材開発・管理 | | <ul style="list-style-type: none"> 適切な評価手法を用いた事業運営担当者の人事評価を行うことができる | |
| 法務 | | — | |
| プロジェクト管理 | | — | |
| ヒューマンスキル | コミュニケーション | プレゼンテーション | <ul style="list-style-type: none"> 意思決定権者に対し、正確に現在の事業運営発状況について説明することができる 事業運営上の課題を踏まえ、次の改善点について説明することができる 説明のための分かり易い資料を作成することができる |
| | | 状況対応 | — |
| | リーダーシップ | リーダーシップ | — |
| | | メンバーの育成 | — |
| | | チームマネジメント | — |
| | ネゴシエーション | ネゴシエーション | <ul style="list-style-type: none"> 理論的思考を持ち、(地域やトップとの)折衝、交渉、取引の技術やプロセスを理解し、実践することができる |
| コーディネーション | | <ul style="list-style-type: none"> 関係者(地域やトップ)の期待するベネフィットを考慮した対応を行い、コーディネーション・リレーションを構築することができる | |